

ちょっとひと工夫

— 家庭学習改善のための情報 —

家庭学習通信 No.18
平成28年7月発行
長野県教育委員会
学力向上推進チーム
Gチーム

他県から学ぶ家庭学習改善の取組①

Gチーム研究班 高橋 廣貴（総合教育センター専門主事）

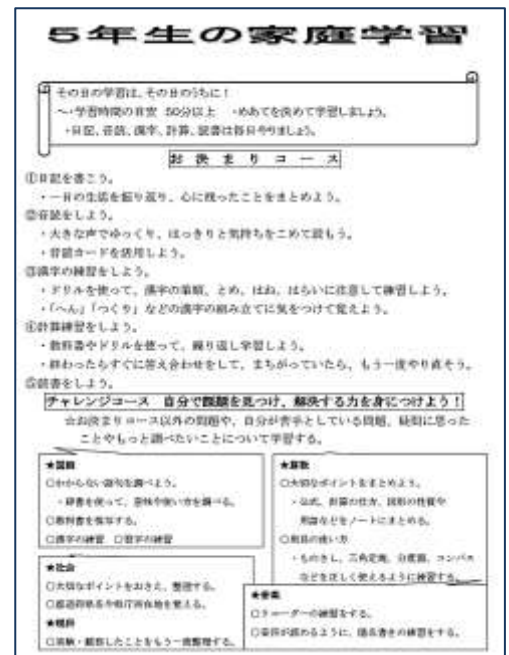
6月27日（月）に、総合教育センターの研修講座「家庭学習のあり方を考える」が行われました。その中で話題にした他県の家庭学習の取組について、今回と次回の2回にわたって紹介します。

今回は、「自主学習がなかなか身に付かない」「自主学習にしたら提出率がガタッと下がった」など、「取り組ませ方が難しい」という声が多く聞かれた「自主学習」についての他県の取組の紹介です。

＜千葉県市原市立戸田小学校の取組＞

家庭学習において、宿題を「お決まりコース（日記・音読・計算練習等）」、自主学習を「チャレンジコース（語句調べ・授業のまとめ等）」と名付け、それぞれの取り組み方について家庭学習の手引きに明記しています（右図）。特に「チャレンジコース」については、どのようなことをすればよいのか、何をすればよいのかなど、具体例を示すことで、児童が自主学習に取りかかりやすいように工夫しています。

受講者からは、「自主学習の名前をチャレンジコースと変えるだけでも、児童のやる気に火がつけられそうだ」「最初に、具体的にやる内容を示し、やり方を丁寧に教えることが大事だ」などの感想が聞かれました。



＜福井県敦賀市教育委員会の取組＞

小学校低学年用、高学年用、中学生用の家庭学習ガイドに加えて、小学1年生用に「入門編」（左図）を作成し、義務教育の早い段階から宿題や自主学習の習慣が身に付くように、家庭・児童生徒・学校の三者をつなぎながら、市内全小中学校で家庭学習に取り組んでいます。

受講者からは、「小学校でも積極的に自主学習に取り組めそうだ」「小学校で自主学習をやっていることを知っていれば、中学1年生からすぐに自主学習に取り組める」などの声が聞かれました。

＜他県の取組から学びたいこと①＞

- ★自主学習の具体的な内容を明確にし、最初はやり方をきちんと指導する。
- ★発達段階も考慮しながら、小学生のうちから自主学習を意識させる。
- ★小中で連携することで、育っている自主学習の芽をさらに伸ばす。

※次回は、ねらいの設定や児童生徒のかかわりを大切にしたい取組を紹介します。